

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン】

事業名	携帯電話を活用したビジネス教育とコミュニケーション方法等の研究開発		
学校法人名	学校法人 岩谷学園		
学校名	岩谷学園アーティスティックB専門学校		
代表者	理事長 岩谷伸一	担当者・連絡先	北見善彦 045-453-2377
<p>&lt;事業の概要&gt;</p> <p>今回の研究は、文科省の専修学校重点プラン「携帯電話を活用したビジネス等の教育とコミュニケーション方法等の研究開発事業」です。</p> <p>職業教育の普及啓蒙、教育の質の向上、多様な年齢層や異なる能力層に対する教育方法の研究開発等は、現在における専門学校共通の課題となっています。特に大きいのが、変革が著しい産業界より、グローバルな競争に生き残るため、即戦力となる有能な人材の育成をもとめられていることです。そのため、専門学校はインターンシップ、デュアルシステムなど様々な新しい教育方法を実践し、即戦力で有能な人材の育成を模索しています。そのような授業方法をとる場合、学生が通常授業に出席できなくなるため、学校側ではそのための授業補完方法を検討する必要に迫られることとなります。私たちは、殆どの方が持っている携帯電話や普及著しいインターネットなどを利用して、より実践的な</p> <p>① 携帯電話とネットワークを利用した教育プログラム、テスト、アセスメント、といった一連の総合的、効果的な教育システムの研究開発</p> <p>② 携帯電話とネットワークを利用した学生等とのインタラクティブなコミュニケーションの研究開発</p> <p>という2つの研究事業を行いました。</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>① 携帯電話とネットワークを利用した教育プログラム、テスト、アセスメント、といった一連の総合的、効果的な教育システムの研究開発</p> <p>専門学校生を中心とし、高校生にも一部協力をいただき、昨年の文部科学省の研究事業で培ったプログラムを発展させ、それを活用した新しいプログラムの推進を実施してきました。</p> <p>知識や基本的スキルは携帯等を利用した教育で、いつでも、どこでも、時間がある時に学習できる環境を整えることが初歩の段階では行えるようになっていきます。</p> <p>実際にプログラムとしての提供は、携帯電話でのテスト（アセスメントを含む）の制作に多くの時間を費やしてしまい、各専門学校でのプログラムの実施までには至りませんでした。</p> <p>しかし、一方では、携帯電話でのテストに何度もチャレンジする学生もあり、これだけでも学習効果があったと考えます。</p> <p>教育プログラムの内容を貫く考えは、最初にも述べてありますとおり、「楽しく学べること」「興味や意欲が湧くこと」「あなたの生き方を応援する」という精神であり、自分の知っている世界だけにとらわれない、幅広いスキルアップを図れることが大切と考えます。</p> <p>さて、実施したアンケートやヒアリング調査を分析すると、参加した学生にとって、身近な携帯電話でのテストは新しい感覚としてとらえられ、「楽しく学べる」「興味や意欲がわく」という根本的な次元では、まずは成功であると考えています。</p>			

しかし、一方で大きな問題として出てくるのは、実施前から懸念されていたコストの問題と思われる。今、携帯電話も新たな変遷の時期に入ってきていると考えられます。

携帯電話の需要が単なる「通話」や「メール」に限定される時代は過ぎ去ったと考えます。

これからの教育の変化に伴う、新しい教育ツールの研究は、今回の研究を基盤としてさらに推進していく予定です。

## ② 携帯電話とネットワークを利用した学生等とのインタラクティブなコミュニケーションの研究開発

このことは個人情報の観点から必要不可欠といえます。以前は各学校では連絡網を作り、必要な情報の提供、臨時的な情報の提供をしてきたことと思います。しかし、個人情報保護法の施行により、個人情報の活用に関して、多くの制限が課せられる結果となりました。しかし、一方で教育の多様化も出てきており、様々な学校情報の共有化がはかりずらくなっていることも事実です。学校で、家で、という情報確認の条件の中で、「それ以外の場所でも」ということが今回の研究の目的であったと考えます。携帯電話の便利なところは「いつでも」「どこでも」という点にあります。この観点から情報の項目をA. 緊急連絡ルールによる連絡網についての実験、B. リクルート情報、C. 教育情報 D. 学生生活情報の4つに絞り実施しました。

緊急メールには、様々なケースが想定されますが、ここでは災害を想定しての実験を行いました。実施にあたっては、一度目は学生に通知した上での緊急メールの発信、二度目は、本当の緊急メールを想定して、日時等を決定しないで突然の実施を行いました。結果に関しては、比較的早めの対応を学生が実施することが出来たと考えます。

リクルート情報（求人情報）に関しては、就職は生き物と同じ、鮮度が大切と考え、1週間ごと、新しい情報を提供すべく、岩谷学園キャリアセンターの協力もえて実施いたしました。

しかし、就職に関する情報のやり取りは携帯ではコストの問題もあり、リクルート情報はキャリアセンターが携帯電話で流し、インタラクティブな対応は学園のネットワークを通じての実施となっています。一方で、就職に関するガイダンス等に関しては、携帯やインターネットでのやりとりだけでは対応が難しく、直接、話を聞きながら対応すべきこともわかってまいりました。この部分も、いかに携帯やインターネットと融合して、効率的に学生指導を行うかという課題が残ってしまったように考えます。

教育情報や学生生活情報に関しては、担任の先生にご協力をいただき、実施をいたしました。

ここで問題となるのは、最初の情報で、インタラクティブな対応が出来るよう、携帯での掲示板を活用する方法を取りました。学生がどのような情報が欲しいのか。どのような情報であれば書き込みをしてくれるのか。ただ、携帯電話を使ってだけではコストがかかる為協力はしてくれません。私たちは、担任の先生に課題を考えていただくこと、学生の中から課題を出していただくことの2つの方法を取りました。また、アンケートシステムについてもCPネットワークでのシステムを構築し、今回は施設設備に関するアンケートをインターネット上で実施をいたしました。

携帯電話に関しては「いつでも」「どこでも」というスタンスのもと、ある程度の結果を出すことは出来たと思いますが、大きな問題はコストであると思います。また、CPによるインターネットに関しては、普及率は非常に高くなっており、就職やアンケートなどでの活用は記載にあるよう、十分機能させることは可能です。しかし一方では、場所と時間に制約がでてくるのも、また事実と言えます。学内活性化を考える時、情報の共有化、効率化、迅速化は、これからますます大切な部分となるでしょう。